

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	防府あかり園 グループホームいちえ		
所在地	山口県防府市牟礼柳23番地22号		
電話番号	0835-26-6063	事業所番号	3590600056
法人名	社会福祉法人 博愛会		

訪問調査日	平成 22 年 1 月 18 日	評価確定日	平成 22 年 3 月 24 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	12 人	常勤 5 人 非常勤 7 人 (常勤換算 8.7 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋	造り
	1 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 27,510 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
その他の費用	月額	円		
	内訳	光熱水費 667円/日	日用品費 100円/日	

(4) 利用者の概要 (1月1日現在)

利用者数	9 名	男性	名	女性	9 名
	要介護 1	1	要介護 4	2	
	要介護 2	3	要介護 5	1	
	要介護 3	2	要支援 2		
年齢	平均 89 歳	最低 83 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 医療法人浩然会 深野医院 歯科
-------------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

事業所の名前の基となった「この場所での出会い、一緒に笑い、一緒に何かを得ていこう」のスローガンを大切にされ、利用者一人ひとりに寄り添い、尊重し、食事や入浴が楽しめる支援や、活躍できるいろんな場面づくりをし、利用者のペースに合わせて日々の暮らしが張り合いや喜びがあるよう支援されています。9名全員の利用者の方に、息子、娘、兄弟、孫、ひ孫、友人など様々な方が、ほぼ毎日誰かが面会に来ておられ、家族との連携が密に図られています。

(特徴的な取組等)

12名の職員を確保され、行事や通院の予定に合わせて、職員を1名増員しての日中4人体制(月10日程度)で対応しておられます。利用者が家族に宛てて書く手紙(文通)の支援や、自宅への送迎、日帰り温泉、買い物、外食など個別の支援や、年1回、家族も参加しての敬老会(外食会)を開かれており、利用者の楽しみや気晴らしに繋がっています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

評価結果を受けて話し合わせ、家族への報告の工夫や、相談や苦情を受け付ける窓口としての外部機関の明示、研修への取り組みなど、できるところから改善に取り組まれています。

(今回の自己評価の取組状況)

評価の意義について職員は理解されています。常勤職員全員に自己評価書を配布され、それぞれが記入されたものを、管理者がまとめておられます。

(運営推進会議の取組状況)

神社総代の人、市職員、地域包括支援センター職員、利用者、家族、あかり園園長、管理者等のメンバーで1回開催しておられます。活動報告や状況報告をされています。

(家族との連携状況)

家族の面会が多く、面会時に毎月発行している事業所だよりを冊子にして目を通してもらったり、健康状態や金銭管理、職員の異動等についてその都度伝えたり、家族からの意見や要望を聞いておられます。日々の生活の様子を写真にして渡したり、毎月、利用料請求書と「お知らせ」の文書をつけて送付されています。

(地域との連携状況)

自治会に加入され、神社の祭りや地区の文化祭などに参加したり、子供110番、ごみ収集場所の提供、地域の溝掃除に職員が参加されるなど交流しておられます。地区のゲートボール場を自由に使用させてもらったり、花や野菜の苗をもらうなどの交流もされています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「この場所で出会い、一緒に笑い、一緒に何かを得ていこう」というスローガンを作っているが、地域密着型サービスとしての理念は作成していない。	・地域密着型サービスとしての理念の作成
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関にスローガンを掲示して共有し、実践に向け月1回内部研修を行なっている。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し、神社の祭りや地区の文化祭などに参加したり、子供110番、ゴミの収集場所の提供、地域の溝掃除に職員が参加している。地区のゲートボール場を自由に使用できたり、花や野菜の苗をもらったりするなど交流している。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員は評価の意義を理解している。常勤職員全員に自己評価書を配布し記入してもらったものを管理者がまとめている。外部評価結果については話し合い、家族への報告の工夫や外部機関の明示、研修への取り組みなど、できることから改善している。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	前年度に引き続き、今年度も1回の開催である。メンバーは、神社総代の人、市職員、地域包括支援センター職員、利用者、家族、あかり園園長、管理者等で活動報告や状況報告をしている。	・参加メンバーの拡大 ・開催回数と検討内容の充実
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	月1回市に出向いている(生活保護の書類提出)ので、その折に市の担当者と話し合いをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族の面会が多く、面会時に毎月発行の事業所だよりを冊子(インフォメーション)にして目を通してもらったり、健康状態や金銭管理等についてその都度伝えている。日々の生活の様子を写真にして渡している。毎月利用料請求書に「お知らせ」の文書をつけ送付している。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族の面会時に意見や要望を聞き、意見を運営に反映させるよう取り組んでいる。相談や苦情の受付窓口、担当者、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理の手続きを定めている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員12名を確保し、利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟に対応できるよう勤務の調整に努めている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は他の職員がフォローして、徐々に馴染みの関係が作れるよう配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間の研修計画を立て、月例会議後の20分を内部研修として、外部研修受講後の復命やテーマを決めての勉強会を実施している。外部研修は段階に応じて、勤務の一環として参加の機会を提供している。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、防府・山口ブロック勉強会や交流会に参加している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に入所施設や自宅を訪問し、本人や家族の話や家族の話を聞いたり、事業所を見学してもらって、他の利用者とお茶や会話を楽しんでもらい、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう工夫している。9名の内6名の利用者が事業所と同地区の人で、隣接のデイサービス利用後の入居で馴染みの関係がある。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>食事の準備や食事、後片づけ、歌を歌ったり、外出など、利用者と一緒にいる中で、話し合ったり、教わったりしながらともに支え合う関係を築いている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々のかかわりの中での、本人の様子や言葉を記録し、センター方式のシートを利用して、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>本人と家族の希望を聞き、利用者の担当職員、計画作成担当者、管理者で話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>介護計画は6ヶ月に1回の見直しをしている。状況の変化に応じて、家族と話し合い、ケアの見直しをしている。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>受診時の付き添いや送迎、外泊の際の車椅子の貸し出し、自宅訪問、移動理容院の利用の支援等している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期 待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所と同じ地区にある協力医療機関が利用者全員のかかりつけ医となっており、相談や往診、必要時には他の医療機関への紹介、家族への説明などもあり、適切な医療を受けられるように支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期に向けた方針については、入居時に家族と話し合っている。終末期のケアについては、勉強会を行い職員で共有している。実際に重度化した場合には、家族やかかりつけ医等と話し合い、全員で共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	マニュアルがあり、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように配慮している。記録など個人情報の取り扱いに注意している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の流れは概ね決まっているが、日々、その時々で利用者に合わせて支援をしている。一人ひとりのペースを大切に、その人らしい暮らしが出来るよう取り組んでいる。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝、夕食は事業所で調理し、昼食は隣接のデイサービスからの配食である。利用者と一緒に盛り付けや配膳をし、同じ食事を一緒にテーブルで食べ、会話しながら食事を楽しんでいる。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日14時から夕食前までの時間可能であり、一人ひとりの体調や希望、タイミングに合わせて支援している。ほぼ利用者全員が毎日入浴を楽しんでいる。入浴したくない人には、時間を置いて再度声かけしたり、職員が変わったり、気分転換を図るなどしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	編み物、読書、テレビ視聴、歌を歌う、ボール遊び、ぬり絵、繕い物、野菜の収穫、草取り、散歩、食事の準備、後片づけなど、一人ひとりに合わせた場面づくりをし、楽しみごとや気晴らし、生きがいにつながるよう支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は近所に散歩に出かけ、買い物やドライブ、日帰りで温泉に行ったり、夕食や自宅訪問など、一人ひとりに合わせた外出の支援をしている。受診の機会に喫茶店でスイーツを食べたりするなど、外出を楽しんでいる。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	マニュアルがあり、内部研修で全職員が身体拘束について正しく理解するよう取り組んでおり、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中鍵をかけていない。なぜ鍵をかけない取り組みが必要なのか、そのためにはどうするのか等を考えて、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルがあり、状況報告書(ヒヤリはっと報告書)を作成し、事故分類・発生場所・発生時間などをまとめてグラフにして対応策を検討している。一人ひとりに合わせて見守りや介助を行ない、事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急対応マニュアルがあり、市主催の救急対応の勉強会に2名の職員が参加しているが、応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を年2回実施している。地域の人々の協力依頼もしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報はまとめてファイルし、職員は薬の目的、副作用等について理解し共有している。服薬ごとに手渡しし、服用を確認している。必要な情報は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、職員の声かけや見守りで、一人ひとりに応じた口腔ケアの支援をしている。義歯や歯ブラシなどの清掃、消毒、保管についても支援している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分摂取量を記録し把握している。管理栄養士の指導を受けたり、給食日誌をつけて、栄養バランスのとれた食事、一人ひとりの状態や好みに合わせた食事の提供ができるよう取り組んでいる。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルがあり、予防を実行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	季節の花を活けたり、季節に合わせた飾り付けがしてあるリビングには、自然なやわらかい採光が差し込んでいる。テーブルやソファ、ベンチなどを置き、利用者一人ひとりがゆっくりとくつろげる居場所づくりをしている。ホーム内の温度や明るさは適度であり、換気にも配慮するなど、居心地よく過ごせるよう支援している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具やベッド、家族の写真、位牌、本人が作った人形等、馴染みの生活用品を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。季節ごとにタンスの中のもの入れ換えを家族と一緒にやっている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	社会福祉法人博愛会 防府あかり園グループホームいちえ
所在地	山口県防府市牟礼柳23番22号
電話番号	0835(26)6063
開設年月日	平成19年3月1日

【サービスの特徴】

利用者や家族との関係を第一とし、気軽に話をしてもらえ、雰囲気作りに努めている。「この場所で出会い(一会)、一緒に笑い(一笑)、一生何かを得ていこう(一得)」という意味をこめて施設の名前を「いちえ」としている。

住宅地の中にあり、近所にスーパーや小学校、公民館など地域の中の社会資源が利用しやすく、同地区の方の入居が多い為、家族の方も気軽に立ち寄れる環境にある。

月1回以上は、ドライブや外食、散歩や買い物などを行い、社会との関係性を切らないようにしている。畑がありそこで野菜等作り、収穫の喜びやそれを皆で味わったりしている。一人ひとりの居室も広く、これまで使用していた家具など持ち込んでいただきその方に合った空間にしている。協力病院についても同地区の個人開業医院に依頼し、受診しやすく緊急時には往診もしていただいている。職員一同、利用者・家族の想いに添えるよう取り組んでいきたい。

【実施ユニットの概要】 (1月1日現在)

ユニットの名称	防府あかり園グループホームいちえ			
ユニットの定員	9名			
ユニットの利用者数	9名	男性 0名	女性 9名	
	要介護1	1	要介護4	2
	要介護2	3	要介護5	1
	要介護3	2	要支援2	0
年齢構成	平均 89歳	最低 83歳	最高 96歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	前年度の評価結果を基に介護職員がそれぞれ自己評価を行い、管理者が全体の取りまとめを行った。
評価確定日	平成 年 月 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		地域密着を掲げた理念の作成については、今後考えていきたい。
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		法人の理念と運営方針についても、研修を行い職員への周知をはかっている。
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		地区の行事への積極的参加や「いちえ」運営推進会議のメンバーの拡大、また地域の勉強会などにも参加し、地域の一員であると認められるよう取り組んでいきたい。
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		地域行事への参加をより幅広く、積極的に勧めていきたい。
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		今後も施設の持つ専門性を活かした取り組みを行いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の評価や助言を活かし、改善できるところから改善に取り組んでいる。	定期的な自己評価や外部評価を受審し、第三者からの助言を活かしながら、改善へ向け取り組んでいきたい。
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	今年度はまだ1回しか開催できていないため、事業報告が中心となっている。	定期的に会議を開催し、出された意見をサービスの改善に活かしていきたい。
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	機会があれば市担当者とサービスの質の向上について話し合いをしている。	今後も市担当者との情報交換を行い、サービスに活かしていきたい。
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	現状としては、具体的に制度活用を必要とする方はおられないため権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持っていない。	制度の概要など基本的なところから研修を行ってほしい。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	情報提供を行い、虐待、身体拘束、人権問題と合わせて研修を行っている。	高齢者虐待に関する情報提供、研修の機会を持ち、意識を高めていきたい。職員間での注意ができる雰囲気づくりに努めたい。
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	施設の概要や料金など、説明を行っている。家族からの想いや質問については、十分に応えるようにしている。入居に際しても本人、家族に再度見学に来ていただき、理解・納得の上で入居していただいている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に苦情受付、第三者委員や運営適正化委員会についての説明を行っている。利用者は自分の想いを上手く伝えることができない方が多いので、日々の様子を個人記録につけ、想いに添えるよう、好きなこと嫌いなことに気付けるよう努力している。	どの利用者の家族も面会が多いので想いや要望など話がよくなる。今後も面会に来やすい雰囲気作りに努めたい。(挨拶、空間の工夫等)
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	利用者の日々の生活の様子を写真にして家族へ渡している。また面会時にインフォメーションの冊子に目を通してもらっている。利用料請求時に、簡単な報告文書と一ヶ月ごとの出納表とレシートをセットにして送付している。	体調不良時などすぐさま連絡をしている。どの家族も面会が多く、日頃の「いちえ」の雰囲気や状況をよく知っておられるので話がしやすい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	契約書、重要事項説明書に明示し説明を行っている。今のところ情報開示の要求はない。		情報開示の手順等作成しているが開示要求がないので実務はない。記録については、事実をわかりやすく書くということも意識していきたい。
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	契約書や重要事項説明書に苦情窓口や第三者委員など明示して説明を行っている。面会時、積極的に意見を聴くとともに、現在の状況や今後について話し、利用者、家族からの要望についてはできることはすぐに取り組むように心掛けている。		外部機関等を明示して、利用者、家族への周知をはかりたい。
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月例会議を始め、出来る限り職員の意見や提案を聞く機会を設け、サービスの質の向上へ反映する努力を行っている。		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	必要な際には超過勤務や勤務変更をするなどして対応している。利用者の急変等、緊急時においても即対応できるように、管理者や主任をはじめ各職員への連絡体制を明確化している。		
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動や離職は突発的なことが多いため致し方ない部分もあるが、徐々に馴染みの関係がとれるよう配慮をしている。		今後もできる限りの配慮はしていきたい。
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内では、常勤職員・非常勤職員それぞれを対象に研修を行っている。外部研修については、その研修の内容により管理者が参加者を決定し、職員個々の必要に応じた研修に参加出来るよう配慮している。自主的な研修参加にも勤務時間や移動についての配慮をしている。		正職・パートにかかわらず研修参加の機会を設け、費用等についても配慮した。
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	職員の年齢は20歳代から70歳代までと幅があり、利用者との交流、車両の運転、重介護のケア等様々な場面に対応できている。		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	「山口県在宅老所・グループホーム連絡会」に加入し、研修会や交流会に参加している。このほかにも相互訪問、交流の機会を設けてサービスの質の向上に取り組んでいる。		できるだけ多くの職員が交流の機会を持てるよう参加人数、回数を増やした。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		悩みや問題を受け止め、可能な範囲での業務改善をはかってストレス軽減のための努力をしていきたい。
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		入居に際して本人や家族納得の上での入居をすすめている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		生活を共にすることはどういうことかということや常に意識し関わっていかねば、馴れ合いで関わったり、ケアではなく業務になってしまうので、継続して意識付けを徹底していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		外へ出かけていったり「いちえ」での様子を写真にとって渡したりと閉塞感のないように心掛けている。継続していきたい。
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		これからも施設側から積極的に働きかけ、良い関係が保てるよう支援していきたい。
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		面会が多いほど開かれた施設であり、施設外との関係がよい雰囲気にあると考える。面会者数を施設全体と利用者別に月ごとにチェックしその目安としている。継続して行きたい。
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		安心感や安定につなげるため、楽しい・嬉しいといった感情が持てるよう働きかけたい。利用者同士の関係や雰囲気を維持して、利用者が孤立する状況を作らないようにしたい。
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		家族の想いを理解するよう努め、退居後であっても関係性は残せるよう取り組みたい。(病院面会や自宅訪問、相談など)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		ケアプラン作成の際やカンファレンス時、本人の希望を聞いたり、面会時に家族の希望を聴いている。
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		面会の方が多いため色々な話を聞くことができるが、得られた情報を連絡帳等活用し、記録に残すということを引き続き徹底してケアに活かしていきたい。
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		明らかにいつもと違う行動や体調の変化は皆わかるが、ちょっとした変化となると職員の意識の持ち方で気付けないことがあるので、繰り返し研修等で意識の持ち方を勉強していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族の希望を聴き計画を作成している。特に日々気にかけること(精神面・身体面)の共通認識をはかった上で、利用者の希望を支援できるように計画している。まず出来るところから目標を掲げ行っているが、重度の方の場合など計画が職員の行動計画になってしまっている。	面会時などに家族の希望を聞き計画を立てているが、今後は改めてその機会を設け、家族の要望をもっと引き出して家族と一緒に支援できるような計画を作成していきたい。
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアの見直しや変更の場合、家族の面会の際などに話し合いながら行っている。日々の変化や対応について、その都度家族と連携をとりケアを行っているが、それを連絡帳等を通じて職員間の共有を図っているため、随時計画書そのものを変更することが不十分である。	今後は、職員間の情報共有の強化や次のケアにつなげるための根拠としても、計画書自体の変更を行い残していきたい。
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子について体重や血圧、体温、脈拍数などのバイタルチェックや食事、入浴、排泄などを細かく分かりやすく記録に残し、体調不良時や受診の際に活用している。個別記録をつけることにより利用者の生活パターンや人物像をとらえるよう努めている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	隣接のデイサービスの行事に参加したり、受診時の送迎、入退院時の送迎、外泊の際の車椅子貸し出し、体調不良時の受診手続きや往診の依頼等家族の要望については出来るだけ応えるようにしている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要があれば先方より力を貸していただいているといった現状。地域の関わりについてはまだまだ受身の状態であり、こちらから働きかけて、その結果協働できているといったわけではない。	今後検討していきたい。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	市からの委託事業として、地域の公民館において「認知症介護教室」を行った。家族・ボランティア等の見学については随時受け入れている。	今年度も、認知症の理解や関わり方についての教室の開催を計画している。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	地域の美容院に行けない方については、移動美容室に来てもらったり、家族の希望で遠方の病院に受診する場合は福祉タクシー等利用してもらっている。	必要があれば、外部の介護支援専門員との連携をはかっていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		地域のネットワークを構築するために、地域包括支援センターとの連携を密にしていきたい。
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		協力病院医師が非常に話しやすく、相談も時間をとっていただける。家族への説明や他の病院への入院についても連絡調整をしていただいている。
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		引き続き協力が得られるよう、利用者の「いちえ」での様子など密に連携をとっていきたい。
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	今年度該当者はいない。	入院時には利用者情報を病院へ提供し、病院関係者と情報交換をして早期退院に向けての協力をしている。また利用者の不穏が発現した際には、職員が立ち会ったり、家族の同行を依頼するなどして安寧に努めている。
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		体調不良や段階的に重度化されていく利用者の家族に、終末期のあり方についてや、もしものときの話し合いは行っているが、まだ「看取り」を経験していないので家族との連携をしっかりとしていきたい。
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		医療との連携や家族の思い、利用者の望むことなど整理していきながら「いちえ」での終末ケアの対応を明確化させていきたい。
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		移転先の老人ホームの職員に来てもらい「いちえ」での生活を見てもらったり、情報録・ケアプランなどを伝達し、細かい情報提供を行っている。また転居後も機会があれば面会に行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>個人情報やプライバシーの保護については規程を設け対応している。特に排泄については、対応によって利用者が傷つき、認知症のレベルがすすんでしまうこともあるので特に気を配っている。</p>	<p>勉強会やその場面場面で、個人情報保護とプライバシーの保護を認識し、ケアの場面や生活の場面でのプライバシーの保護(空間的・心理的)の意識の共有化を図りたい。</p>
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>まず利用者の希望や好みを見つけられるよう努力している。出来る限り利用者の自己決定を大切にしていきたい。利用者の方が手元においておきたいものについては、家族と連絡をとり利用者の方に管理してもらっている。</p>	<p>利用者の願いを実現することや想いに添うことが一番大事なことであり、そのためにはどうすればよいかということを常に考えていきたい。</p>
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>家事全般について出来ることはしてもらっている。居室の清掃やトイレなどは一人だけではできなかつたり不十分であったりするので後からもう一度職員が掃除を行っている。</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>見守りなどをしていながら、その人の居たい場所ですごしてもらうようにし、一人ひとりのペースを大切にできる限りこれまでの生活リズムをくずさないように支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理美容に限らず外出については利用者が行きたいと言われた場合には一緒に行っている。服装等についても外出する時は、おしゃれをしたり、外出するまでの高揚感も大事にしている。</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事を一緒にすることが生活を共にすることの第一歩であるという意識のもと、できる方については準備や片付けも一緒に行ってもらっている。食事と同じものを一緒にテーブルで食べている。</p>	<p>利用者の状況変化等により、食事の準備・片付けについては、徐々に職員主体の度合いが高くなってきている。</p>
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>生活の中で楽しんで来られた嗜好品などは、施設でも日常的に楽しんでもらいたいということを意識している。但し、健康に影響を及ぼすものについては、医師や家族と相談しながらおこなっている。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>各居室にトイレがあり、各自自分の居室トイレで排泄してもらっている。排泄時にはカーテンや居室の戸を閉めるなど、プライバシーの保護にも配慮している。介助を要する利用者もそれぞれの排泄間隔や回数を把握しトイレで排泄できるよう支援している。</p>	<p>声掛けや誘導の仕方については、さりげない支援が出来るよう工夫していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日実施し、本人の意思を確認して入浴してもらっている。その日の担当者がマンツーマンで対応し、各利用者に合わせた介助を行っている。拒否があれば、時間を置いて再度声掛けしたり、入浴担当でない職員が対応することもある。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	家での様子(就寝時間や睡眠時間)などを家族に聞き、状況把握に努めている。夜寝付けない方については、無理に寝かしつけたりせず付き添って落ち着くまで一緒にいたり、眠くなるまでホールで過ごしたりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	これまでやってきたことや趣味などを活かせる役割作りを行っている。利用者の方には、お願いされてやっているという気持ちももっていただくように、「ありがとう」と感謝の言葉を伝えるようにしている。		今後は、やってみたかったことなども利用者、家族から聞きながらその実現を支援していきたい。
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	日々の生活品費やお小遣いについては家族より預かり施設で管理しているが、家族と相談しながらお金を持ちたいという方には持ってもらい、外出時は自分のお金で買物をしてもらう場面を作っている。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は散歩や買い物など状況に合わせて適宜出かけている。車椅子の方でも天気の良い日は散歩したりドライブなどして気分転換を図っている。ゴミ捨てやちょっとした買物なども一緒に行っている。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	数名での外出やショッピング、個別に日帰り温泉など計画を立てて出かけている。家族の方が墓参りに連れて行かれる際には、車椅子を貸し出ししたりしている。利用者が以前住んでおられたところへ行き、昔なじみの方に会う機会も持てた。		利用者の生活圏の拡大や、なじみの関係性を断ち切らないように、今後も家族と協力しながら施設の中だけの生活にならないようにしたい。
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や親戚、孫等の面会が多くあまり電話や手紙の利用はないが、電話を希望する人にはこちらで電話をかけ、先方を確認してから利用者として代わったり、職員の支援のもと手紙のやり取りをされている利用者もいる。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時は、必要以上の連絡はしないようにし、利用者との時間を少しでも多く過ごせるようにしている。職員の対応や施設の雰囲気や気兼ねがないように、過度な声かけ等しないようにし、また来ていただけよう意識している。		面会の人数が多いので、引き続き来ていただけるように空間作りや雰囲気作りを心がけていきたい。
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	家族の付き添いや宿泊は、利用者にとっても嬉しいことであると同時に、職員も家族と一緒に支援しているという実感や連帯感が持てるので面会に来ていただけることは施設にとってありがたいということを家族に伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	敬老祝賀会は、家族への参加を呼び掛けお祝いの外食会を行った。	家族より、自分達がしている活動を「いちえ」でもやってみたいという話をいただいております、今後実現していきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	目に見える状態のみが拘束ではなく、あらゆる場面においてその人の人権を無視する言動はすべて人権侵害であり拘束であるということを内部研修により共通理解を図っている。しかし声かけについては、指示的な声かけをしてしまうことがあり、職員主導の支援になってしまう場面もある。	スピーチロックについての共通認識がまだまだ徹底できていないので、内部研修やミーティング、またそういった場面があった場合、その都度注意しあい、利用者の方の生活の満足度を高めていきたい。
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	なぜ鍵をかけない取り組みが必要なのか、そのためにはどうするのか等考えて支援をしているが、玄関が空いているというだけでまだまだ意識は低い。	外へ出て行くという利用者の方はなぜ外へ出ようとするのか、その理由や想いを考え、日々の生活に不快や不満はないかということに目を向けていく取り組みを継続していきたい。
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜を通して、食堂ホールを中心に記録を書いたりしながら利用者の見守りを行っている。	
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	裁縫道具や編み棒など、利用者の希望や状態に応じて使用してもらっている。保管については、職員の方で十分注意している。	
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態に応じて、見守り・付き添い・介助等おこない、事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態と事故原因の分析を行い、具体的な対策を考えていきたい。
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対策についてはマニュアルを作成している。何かあった場合、主任・管理者へ連絡し指示を仰いだり、協力病院に連絡し指示をもらったりしている。救急対応の勉強会への参加を計画している。	今後もマニュアルに沿って連絡体制はしっかりしていきたい。職員のスキルアップや利用者の安全のためにも応急手当等の勉強会を行いたい。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	状況報告書を作成し、事故分類・発生場所・発生時間などをまとめてグラフにして検討している。事故対策において状況報告書(事実)から見えてきたものに対して注意をはらっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		実際の水害で見えてきた課題等を検証しながら訓練等を行っていききたい。地域連携体制を強化するよう今後も働きかけていききたい。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		薬に関する知識は、まだ十分ではないため、勉強会などをおこない薬に対する知識を高めていききたい。
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		感染予防の備品等を充実させたい。
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		流し台や調理器の消毒も、担当者や時間等を決めて必ず実行するようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	手作りの花壇を作ったり、側溝まわりにプランターを置き、季節毎の花を楽しめるようにしている。またベンチを置いて休憩できるようにしている。	面会に来やすい、入りやすい雰囲気づくりに努めたい。
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	視覚的にも感覚的にも、居心地の良い空間になるよう、飾りや家具など無機質な感じを出さないようにしている。季節に合わせた飾り付け等配慮をしている。	家族や面会者の意見を聞き、工夫は多くしているものの、利用者の方が気に入るだろうことを推測してのことなので、職員の好みにならないようにしていきたい。
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルやソファ、ベンチなど居場所づくりを行っている。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで自宅で使っていたもの、馴染みのあるものを持って来てもらうようにしている(タンス、ベッド、飾り等)。季節ごとに家族と一緒にタンスの中のものの入れ替えを行ったりしている。	引き続き家族と相談しながら、居室が落ち着ける場所であるように支援していきたい。
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空気の入替えや室内温度の調整には十分配慮し、浴室などは特に注意を払っている。また居室についても、声かけをしながら利用者の方と空気の入替えを行っている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	居室に洗面台とトイレがあり、台所の高さも利用者と一緒にできる高さになっている。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室ののれんの色を変えたり、何度も確認しながら居室へ誘導し、感覚的に場所を覚えてもらうことをしている。文書が理解できる利用者には、必要などころに分かりやすく書いた紙を貼り、混乱や失敗が防げるようにしている。	まず混乱や失敗の原因を考え、その時々合った声掛けを徹底していきたい。
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	周囲に芝を張り、日向ぼっこや散歩が出来るようになっている。また畑が5つあり、野菜や果物を一緒に作っている。今年度は、芋掘りをして焼きいもを食べた。	定期的な環境整備を行い、気持ちよく生活してもらえるようにしたている。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	<input checked="" type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない